

玉乃部

越乃部

乾

一十



~ 5
1253
1



利門
第25号
卷1-2

發 毫 高 陵 社 中

俳 諧

三夕磨比路飛

麥 山 城 烏 岬 著



以市一太伴白古と結為の将を前を
哉路尔其為其是は之と和可結結者
画情を志あふ風土結海のと多好ぬ
鳥岬岬加智能其の其其書を
以境情を志と花拂ひを
月雪の夜結其書を
結を拾ひて書跡を

大なり我も我國の境を連ぬる石玉より
ある所致系持地をつらぬる石玉より
玉の石玉より致る石玉より

石玉の石玉

石玉の石玉

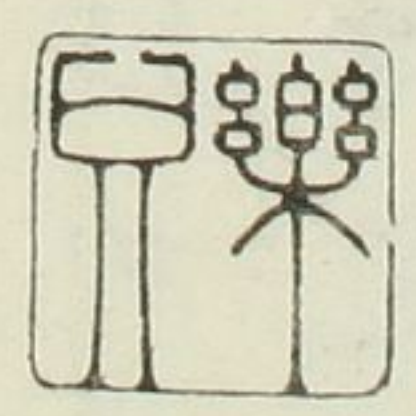


目察種毫平視輿薪人或曰狂也育
璞玉渾金人或曰瓦石也是非見之
踈心出踈也余於麥仙叟所纂實者
感於茲矣以英邁之資釣諸羨之心
蹟精選風韻固非心之踈者也况越
之廣莫也俾璞重渾金遼笑干指掌
之間非此叟誰也由是觀之所題据
玉字實不負其所言矣加之隨候龍

輔之明珠固勿論他日使人窺崑
 崙之一斑豈誇誕哉今也徵序余余
 雖譎劣稱揚與之萬一且當諸君以
 一嚶云

安政三丙辰之夏

雪月堂樂只識



雪月堂樂只識

雪月堂樂只識

雪月堂樂只識

雪月堂樂只識

櫻之切

今園社中

静章寫

けりまは清き水
長き川紀
つりたふた
静かなる木立
あまねく
すくすくや

桐城

辺江

起水



夕紅の霞
一
み一
あ
茶
菊
士

と

松

梅山

茶
花
文

炳文



しんがくすたうしんがく
しんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく

依山
温然
友响
松法
思仙
林阳
梅山
号定

七十四

しんがくすたうしんがく
しんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく
すまふしんがくすたうしんがく

若松
志家
芝草
菖蒲
号松
實業
長玉
石志

桂の古城

言
社中

池のほとり松のまきあわらうの

急石

松のまきあわらうの

のま

清き月影を照らす

秋の~~~~ 石 丈

秋の~~~~ 石 丈

かたじけなく~~~~ 萩 堂

有はく~~~~ ぬま~~~~

ほ~~~~ 萩 孫



有の~~~~

木 乃

ほ~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~

~~~~



山 画

ちんちん山崎

和子

支柜

まはりのほしほし

白々

投瓶

まやまのまを

中川

梅蓄

しんじんのう

串々

伯圭

まのまのま

二二

井里

あしあし

三三

吟村

あしあし

十二

池的

あしあし

二二

寛昌

まはりのほしほし

吉年

あしあし

栄賀

あしあし

竹心

あしあし

茶角

あしあし

イテ

森有

あしあし

梅蓄

あしあし

吟峰

あしあし

希遠

二上山

言部抄

廣文圭画

多ねを境して

多ね也 船乃流

温 然

吹多ね雲も

清乃そけの岳

うか

とらもたらく

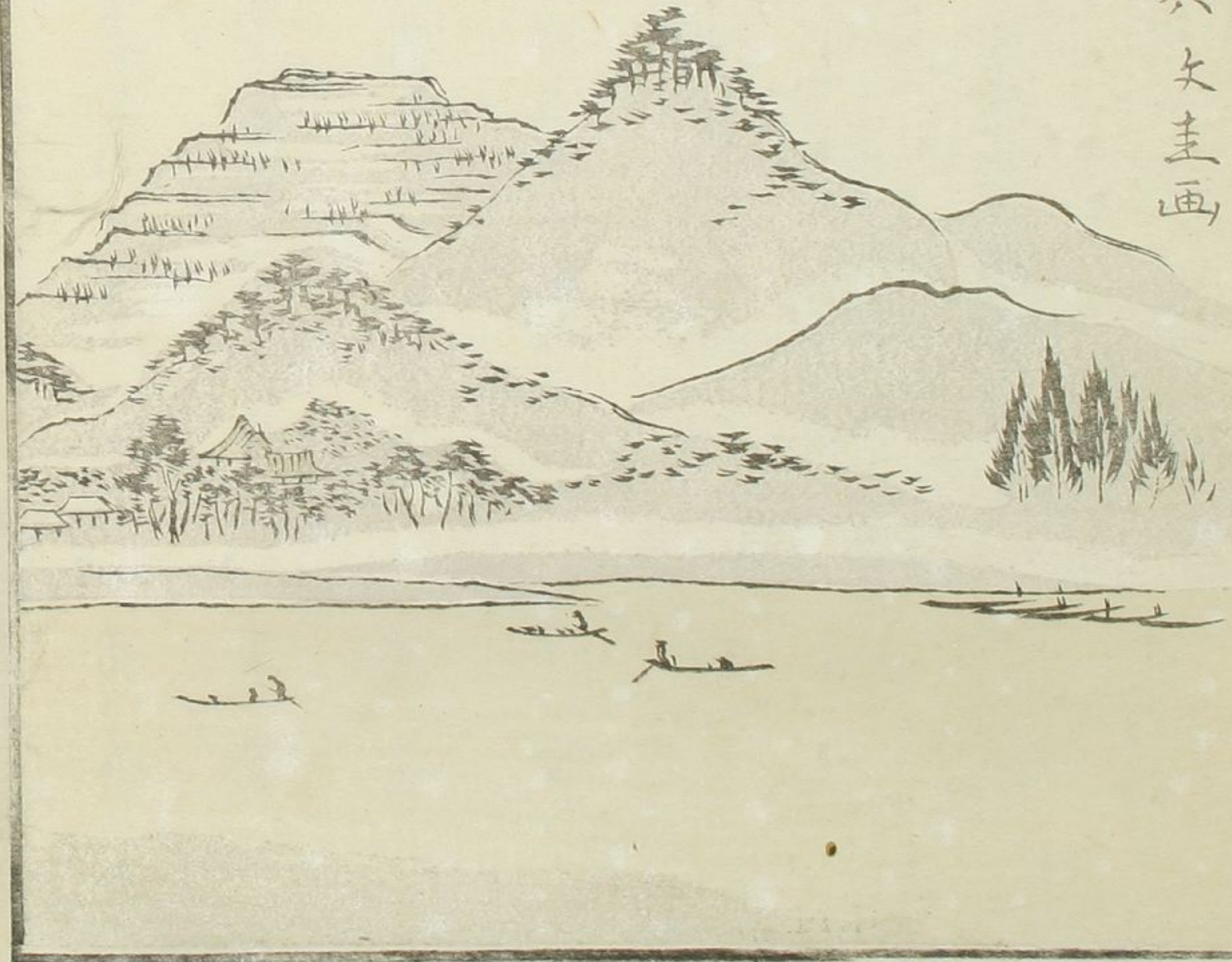
城やそけのそね

湘山

なすもあやめ

ねんも川乃流

ハヒロ 新



後よりりたぬ

うき也 木樨坂 文殊

あそけ附

ゆき 梓乃流

菅叟

なす也 舟乃流

おれ志

依山

二上山 清乃流

大岳のそけ 木樨坂 文殊

河乃流 舟乃流

津島 樺雄



梅溪の半林を早〜〜〜

二二

南河

立〜〜〜田〜

スカタ

自笑

早〜〜〜茶

乙部山

柳文

柳〜〜〜

阿夢

兼〜〜〜

昔久

世笑

夕〜〜〜

松山

夕〜〜〜

二峰

斗〜〜〜

長河

多〜〜〜

ニトシ

相月

日〜〜〜

松原

方〜〜〜

有破

徳〜〜〜

松峯

き〜〜〜

月山

幸〜〜〜

一瓢

身〜〜〜

中ノミキ

う

茶〜〜〜

フニホ

相

くもくもささやきとてしるしりし
白笑 長トクシ

まはるやうきとてしるしりし
冨月

まはるやうきとてしるしりし
左子

まはるやうきとてしるしりし
顕長

まはるやうきとてしるしりし
東海

まはるやうきとてしるしりし
西畝 トムラ

まはるやうきとてしるしりし
う輝

まはるやうきとてしるしりし
松東

まはるやうきとてしるしりし
半山

まはるやうきとてしるしりし
文園

まはるやうきとてしるしりし
五通 北

まはるやうきとてしるしりし
東園

まはるやうきとてしるしりし
后川

まはるやうきとてしるしりし
う都 小スキ

まはるやうきとてしるしりし
お岸 社

まはるやうきとてしるしりし
釣志 西イセ

布施施 中
社

新うまやま

院うまやま布施の秋

万平

船うまやま

うまやま

寛昌

湖うまやま

板乃

文源

鬼子園之



河うまやま

うまやま

中

山うまやま

源うまやま

号

海うまやま

山うまやま

湖的





五月のやまの松の海へ浦節
 池田
 八月
 月波や木のやまを走る江さき
 スカサ
 象年



涼しくはる多城の
 舟はり来ると江
 込江も磯とさき
 岩乃のき年
 無中
 五月
 古坂海
 海舟
 幸吟
 以之和
 山見
 秋中

月夜心子

若子の海
三浦の津

射の川かこり

浦まは海うやに

おろろろ

ふらふらうり

藤子重
年重

波うらなあはる

こねくもまの海

麻交



一海島は海
申さや波のま
水隈や杉を
くくく月海
民さの月
あくくくうれ
けくくく舟
乃くくく海

一峰

東
東

可
可

河
仁



暮乃部

乳あ〜〜と妙な〜〜ゆや〜ゆ〜ゆの目
 蛇乃〜ゆ〜ゆや〜ゆ〜ゆの流れ〜ゆ〜ゆの志
 牛乳〜ゆ〜ゆのや〜ゆ〜ゆの流れ〜ゆ〜ゆの志
 飲〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのち〜ゆ〜ゆのや〜ゆ〜ゆの流れ
 た〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 明〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ

念言ナカ 心
 依 山
 逸 白
 衣 衣
 柄 文
 相 蝶

流〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 去〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 正有〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 追分〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 去〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 富〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 風〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ
 掛〜ゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆのゆ〜ゆの流れ

持ナカ 子 社
 申 有 豆
 全 白 蛇
 持 大 瓦
 正 半 文
 相 治
 流 赤

藤のあや海さうらひの田代梅白

温 然

春のあや海さうらひの田代梅白

文 友

雨のあや海さうらひの田代梅白

梅 山

春のあや海さうらひの田代梅白

美 翁

日よりのあや海さうらひの田代梅白

光 景

極附のあや海さうらひの田代梅白

和 法

春のあや海さうらひの田代梅白

克 响

春のあや海さうらひの田代梅白

雪 史

春のあや海さうらひの田代梅白

平 景

春のあや海さうらひの田代梅白

クニ 圭

春のあや海さうらひの田代梅白

中川 扶

春のあや海さうらひの田代梅白

貞 臣

春のあや海さうらひの田代梅白

八口 新

日車あや海さうらひの田代梅白

ワタ 起

春のあや海さうらひの田代梅白

草 村

春のあや海さうらひの田代梅白

サカ 祀

鹿子神社

六波寺浦
社中

豊成

歳夕詣りてあめ

静かぬあまの秋

あらしのうらみ

松月

あらしのうらみ

あま

あまのうらみ



鬼業

あらしのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

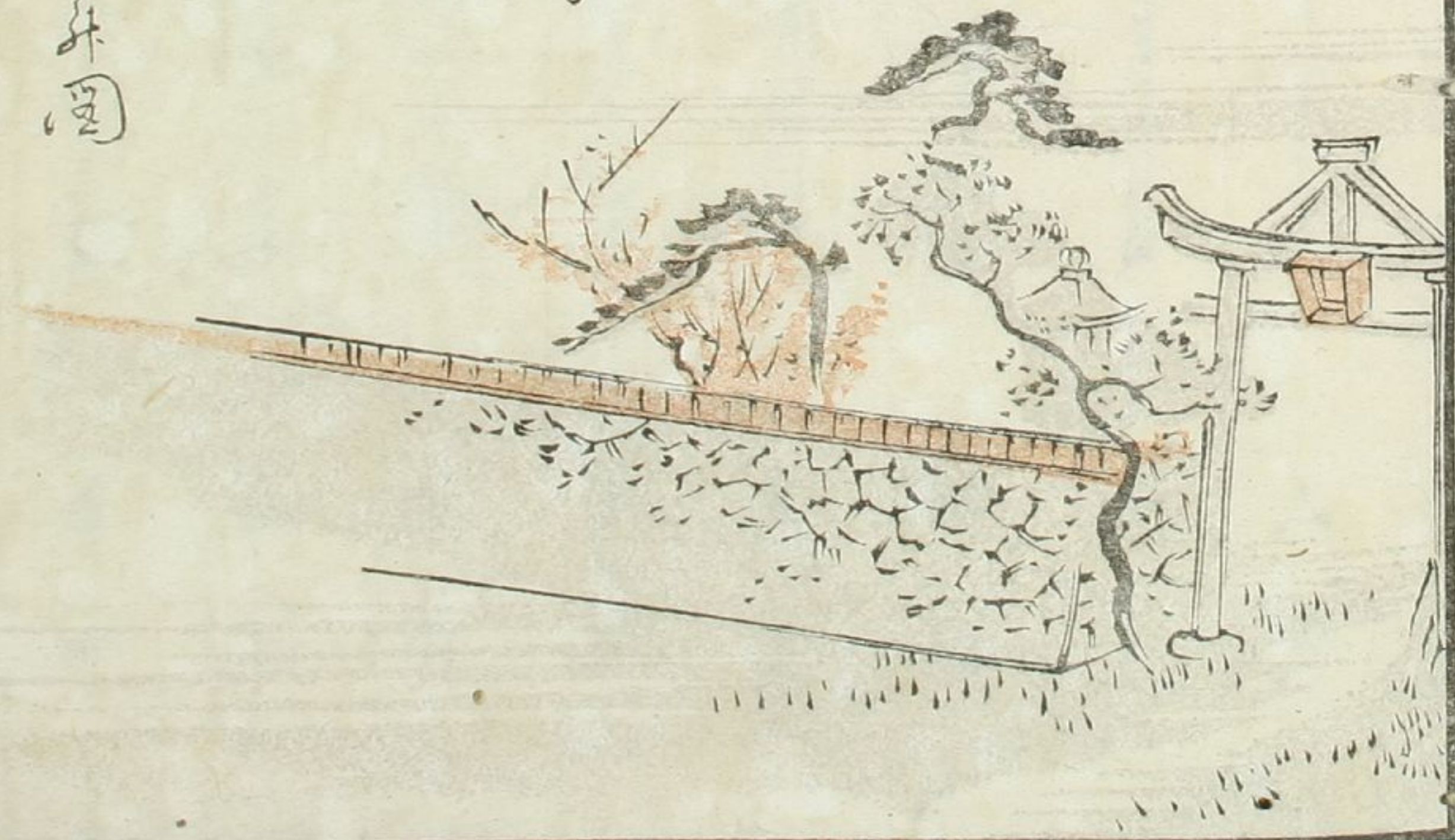
月川

あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ

月山井園



解くくくくき本あ〜〜ぬ美標
可 葵

豆〜のちや〜のな〜ぬり〜は〜色
青 林

汁のき〜〜あ〜る〜い〜け〜や〜暮〜る〜月
桂 里

番〜り〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
茶 相

干〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
五 泥

糸〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
糸 珠

夕〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
土 師 道

火〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
土 師 道 久 南

竹保眼のま〜り〜さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
竹 保 眼

千〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
千 保 眼

時〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
時 保 眼

〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
時 保 眼

た〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
津 崎 梅 旗

夕〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
其 本

唇〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
其 本

藤〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
其 本

月山画

麻の浦

大畑の園

六浦寺

社中

寺の山を

一孤

庭の掃おくれ

冬は雪も時の

少やふも

新山



新の香のそり

藤山

時分は

わさささ

梅庭

さささ

古の腰を

見山

新山

海を穿て高きやうふり細原の
西溪
其浦
孤



~~~~~

イナク

枕

~~~~~

意

~~~~~

吉久

業

~~~~~

二

~~~~~

百

~~~~~

ふと

狐

~~~~~

里

~~~~~

松

~~~~~

阿

~~~~~

月

~~~~~

一

~~~~~

中

楽

~~~~~

長

顯

~~~~~

ト

西

~~~~~

可

~~~~~

山

少〜の家の跡を〜〜〜田舎に

相 東

約書〜〜〜〜〜

文 園

子乞〜西津〜〜〜

他五 通

書〜〜竹〜〜〜

東 園

押〜〜〜草〜〜

右 川

舟〜〜〜〜〜

小 都

〜〜〜〜〜

社 花

押〜〜〜〜〜

相 屏

老〜〜〜〜

上 木 坪

子や〜〜〜

双 水

実〜〜〜〜

上 杉 亭

上〜〜〜〜

一 舟

少〜〜〜〜

音 寺

坂〜〜〜〜

美 家

少〜〜〜〜

美 院

少〜〜〜〜

三 完 哉

志那の濱

三ノ新

社中

天日隈宮御杖代兼国造尊孫

海舟の幸是の海系乃海也

とものりふあふ孫ちの

素のきふゆゆまの月 蓬山

月あて舟の月あや舟の森 赤山

峯あて舟の月あや舟の森 福草

あふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 林水

とものりふあふ孫ちの 丁亥

三省舎主人



浦のきふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 蓬山

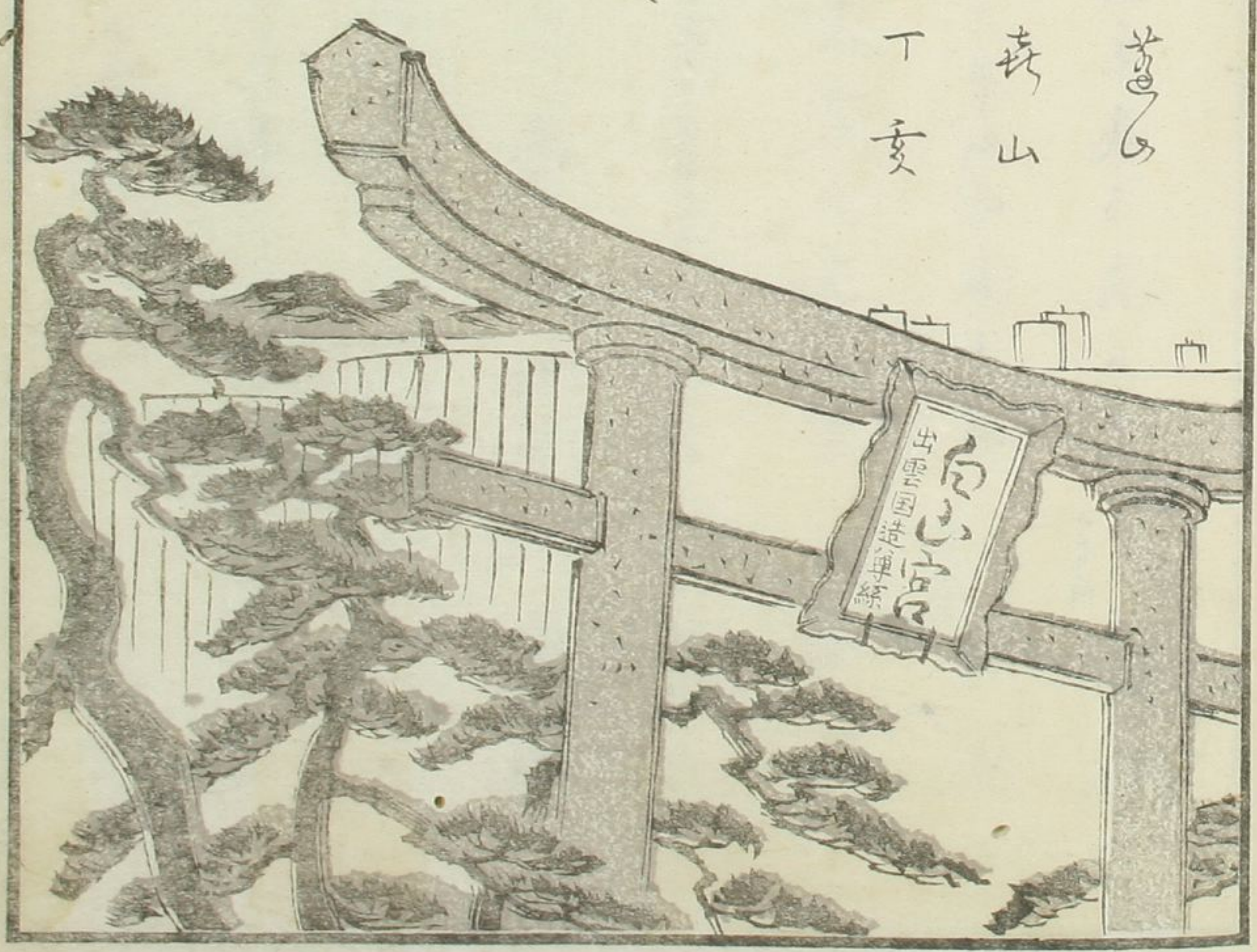
とものりふあふ孫ちの 赤山

孤舟も持ぬゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 丁亥

歳代経るゆゆゆゆゆ

月平あふゆゆゆ

福草



蘇... 田... 己... 河... 接... 魚... 十... 此...

小英 杉 英 早 桑 杉 吾 尾

碎... 柳... 有... 新... 智... 十... 十... 兼...

其年 里 昂 泥 辰 止 三

秋乃部

縦~~~~~
沸~~~~~
焼~~~~~
刈~~~~~
照~~~~~
五~~~~~

炳ヒカ文
迄
相
号
东
急

あ~~~~~
あ~~~~~
あ~~~~~
あ~~~~~
あ~~~~~
あ~~~~~

候風
候
候
候
候
候

小杉驛南麓鞠山桃給圖

以山頂有茅閣稱桃源是隱士
山中松齋翁曾所卜築也中嶋
梭軒詩宗過訪有以今錄其二
句全詩見永流雲在集

天涯十年友

目下七州山

才東乃林の流をこぼしや
錦れしや 回 半
ふらふらとわらふるも
下人の心 三 峰



小杉の山を懐く鳥や
桃乃の心 二 友
さるやあまのあまの
庵乃の心 牛 桑
くさくさな山を懐く
くさくさな山 眞 山
くさくさな山を懐く
くさくさな山 眞 山
くさくさな山を懐く
くさくさな山 眞 山
くさくさな山を懐く
くさくさな山 眞 山



三月廿七日

田山

松

松

松

松

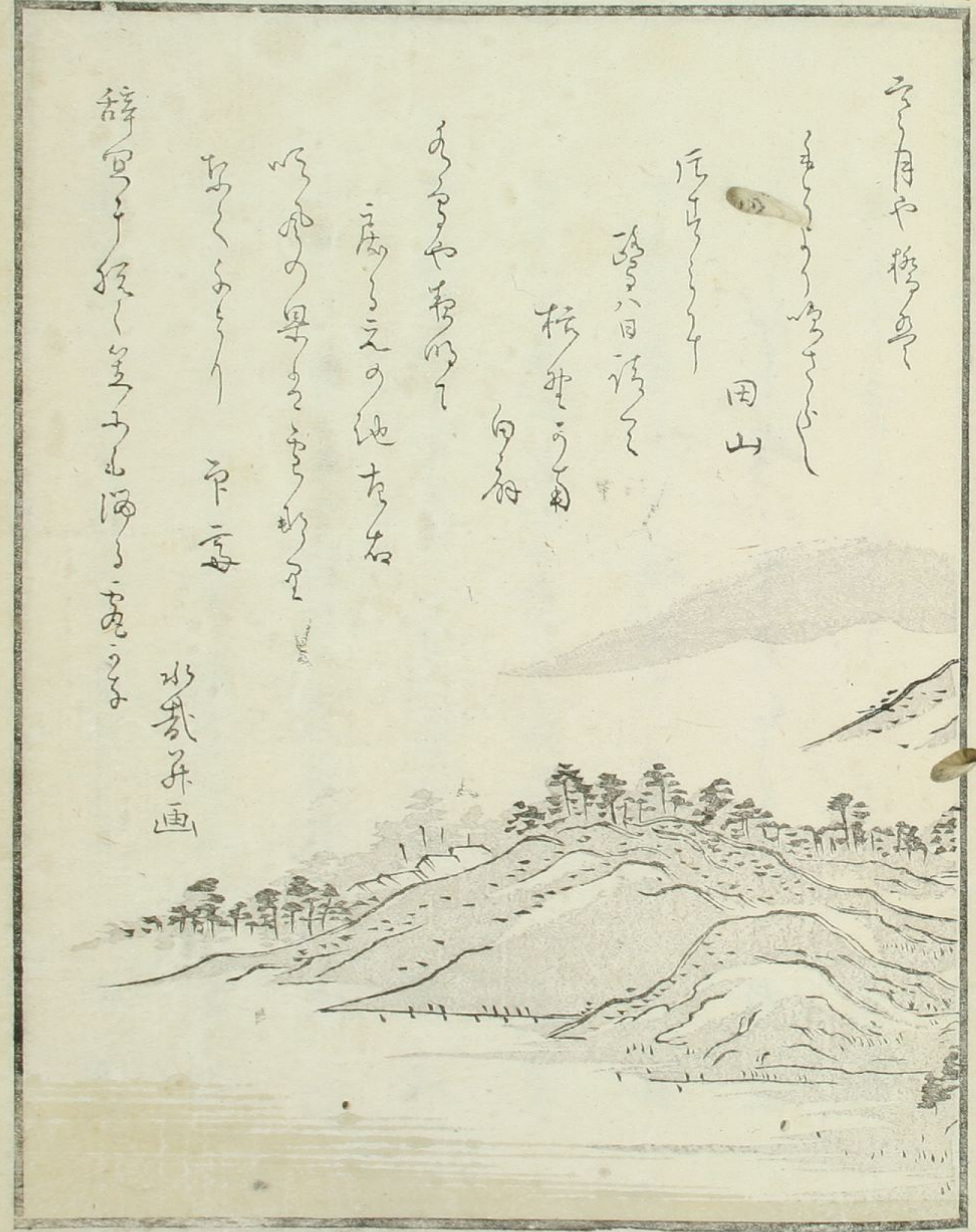
松

松

松

辞

水



金

坂

戸



去るはらへりてくつひもむねありぬ
 ね雲
 名有りて海も波乃し海もうね
 古
 りてやゆらぐ秋の 子枝
 奇
 出てくつひもむねありぬ秋の音
 清
 かくも年おちるもさうなれば
 う
 有るけきも 揮ひてくつひも
 暮
 去るはらへりてくつひもむねありぬ
 桂
 素
 相

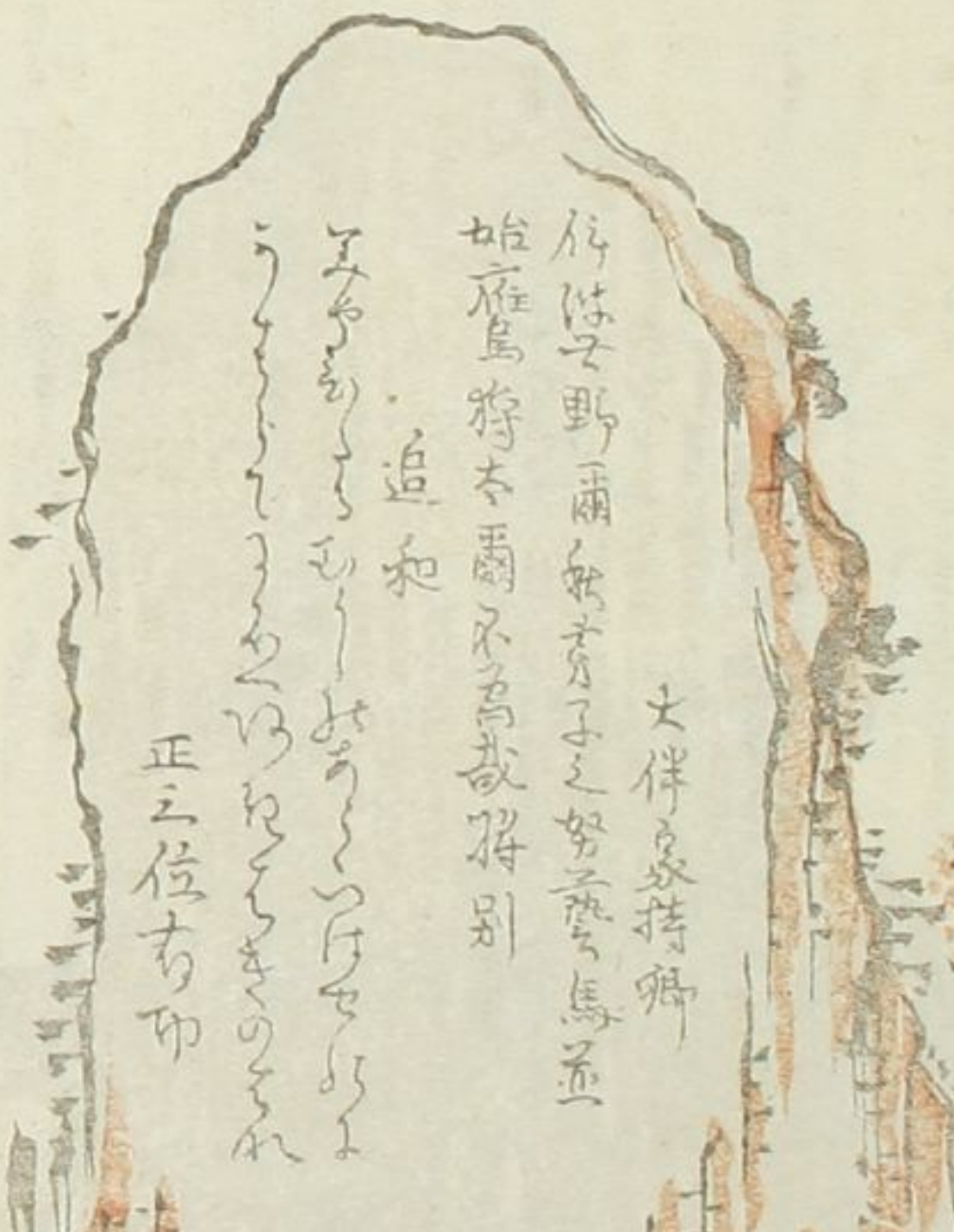
秋のよや夜くつひもむねありぬ
 立
 平乃し海も波乃し海もうね
 素
 名有りて海も波乃し海もうね
 花
 山乃ちみおち枯れくつひもむねありぬ
 秋
 秋はくつひもむねありぬ
 花
 白雲のよらむねありぬ
 支
 押さくつひもむねありぬ
 子
 秋
 秋のよらむねありぬ
 木
 秋

新川浦言添

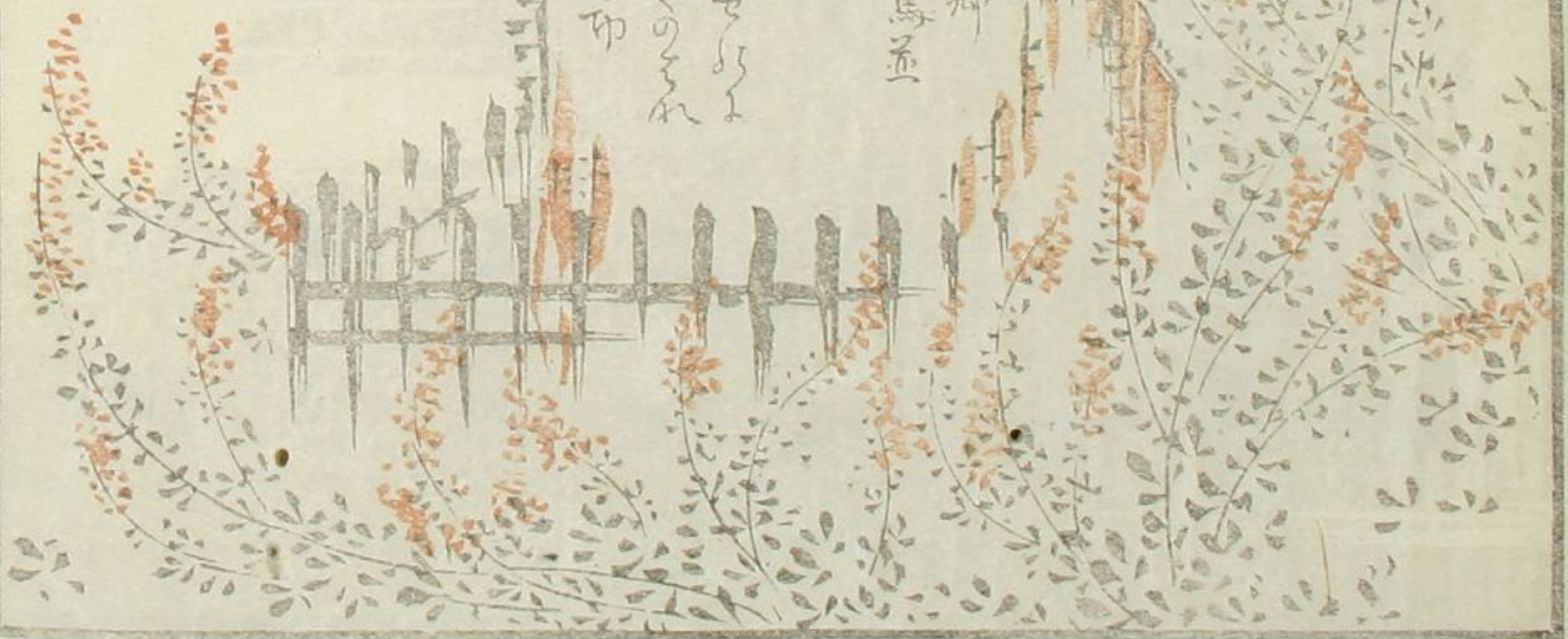
出流社中



いけやけや... 重放



大伴... 正三位



秋葉夜顯朝

山外... 秋葉夜顯朝



早もゆるりやま掃のそと 経もるし
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ

楓 子
波 水
茶 夕
夏 山
丈 祜
又 松
一 双
白 杉

あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ
あはれいづこもささくも せいのうのせえいぬ

佳 月
自 杉
巨 川
古 萩
自 洲
久 丈
丈 老
百 草

のきりしる

流るる水もささるるかきもささるる
ささるる水もささるるかきもささるる
忠順

年々水もささるるかきもささるる

あはれいふとささるるかきもささるる
啓行

おきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる
忠知

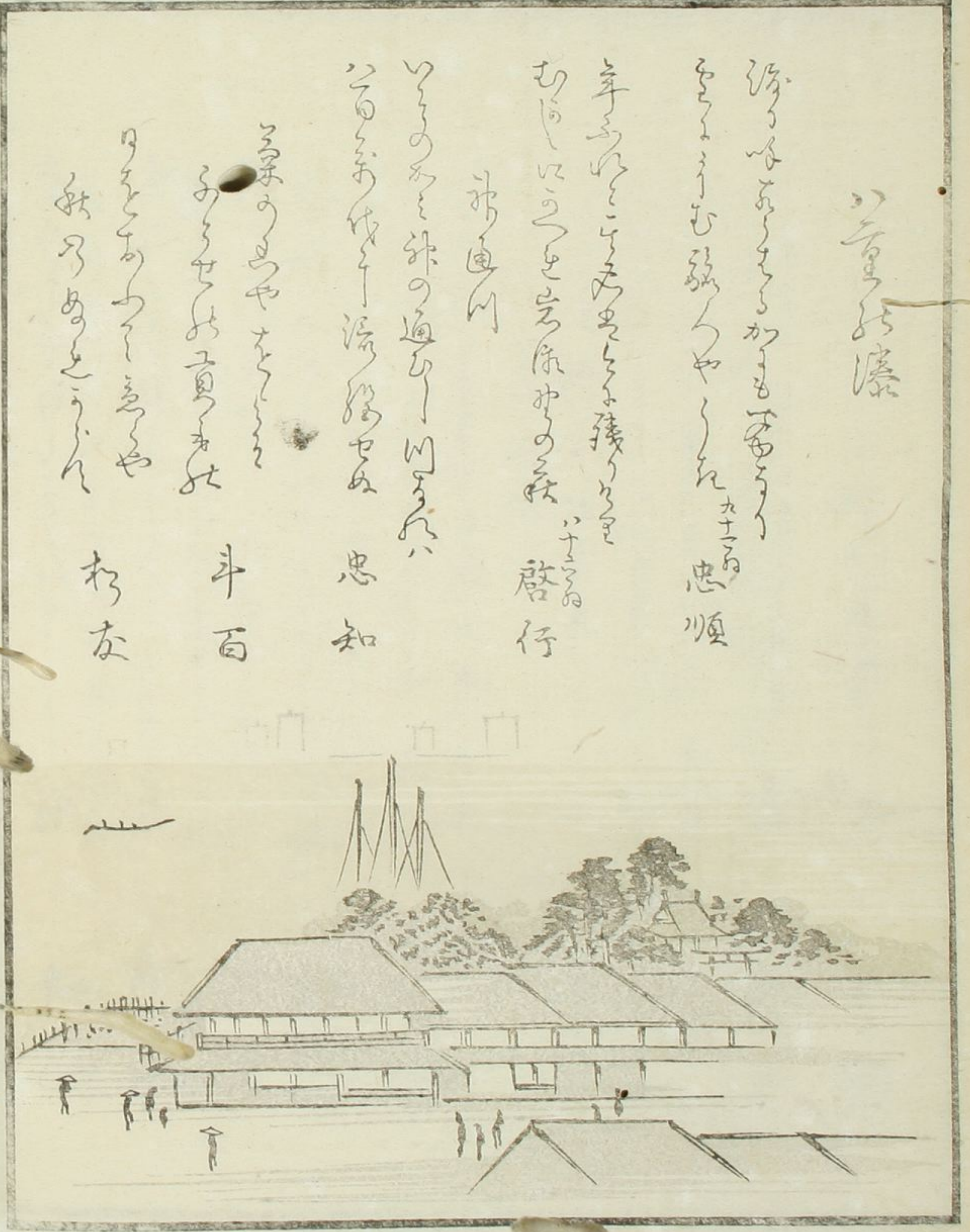
いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

斗百
杉友



いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

いふのきりしるの道いふのきりしる

百枝
貞純
抱古
貞祐
美里
二監



言人乃部

筆をたててのまゝにひらきしる

筆 器

伸るゝの尾を折るゝや 折乃有

儿 慈

岸をひらきしるゝのまゝにひらきしる

岸 仙

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

乙 号

辭子

少ゝゝの遠きものをひらきしる

ト 之

明徳のやまをひらきしる

申 之

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

鳥 之

阿のまゝにひらきしる

又 澄

多ゝゝのやまをひらきしる

多 来

古ゝゝのまゝにひらきしる

奇 取

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

有 水

藤をひらきしるゝのまゝにひらきしる

非 葉

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

五 板

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

文 之

鳥をひらきしるゝのまゝにひらきしる

束 屋

あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ

文

吐

岸

里

白

孤

三

依

あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ
あまのつらさ
さかしのつらさ

十

鳥

那

鬼

石

追



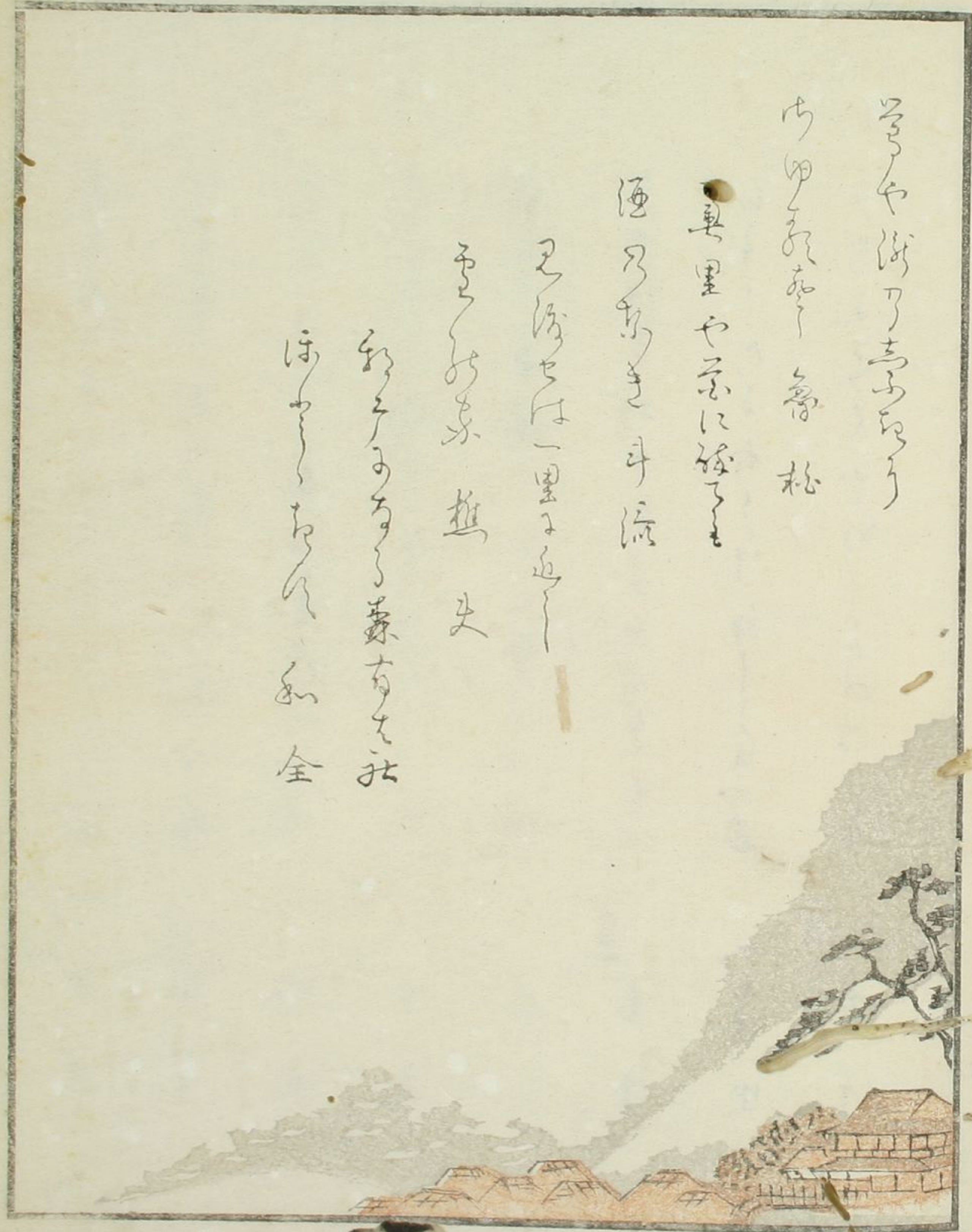
大岩山

日石寺

上市

社中

松林園



高き山に雲あり

少ゆきありて 春 松

奥里や京に遠く

酒乃新き 斗流

己後とて一里子通

予の如き 撫 史

新よりありて 藤有る社

海よりありて 和 全

新のいのふりふりふりふり

十三
竹

~~~~~

七  
柳

~~~~~

湖

~~~~~

其

~~~~~

河

~~~~~

南

~~~~~

字

~~~~~

字

